

<校訓>
高志共生

大庄中通信

大庄中学校
H24年度第13号
(H24.12.20・木)

2学期の進路・個人懇談会を迎えて

今週末の21日(金)まで、2学期の個人懇談会(3年は進路懇談会)を行っています。

学期末の懇談会は、担任から、学習などに関すること・進路に関すること・生活に関すること・健康に関することなどの学校での様子をお伝えするとともに、保護者の方からの学校へのご意見・ご要望などをお聞きし、学校と家庭との連携を深め、子どもたちのよりよい成長を図っていくためのもので、本校では1学期末と2学期末に実施しています。

勉強をしていないと困るのに…

先日、1・2年生の期末テストの学年全体のまとめを見ていて、ビックリしたことがありました。

定期テストは、子ども達が授業内容をどれくらい理解しているかを把握することが主な目的ですから、問題が難しいかどうかで多少は変動することもあります。だいたいどの教科も平均点が60点前後になるように問題作成をしているはずですが、今回は教科ごとの平均点にかなりの差がありました。特に、1年生では学年平均が35点くらいの教科があったり、学年平均が70点くらいの教科があったりしました。

また、何点台が何人かという人数分布のグラフを見てみると、普通は右のグラフのように平均点の中央付近の人数が一番多く(50～60点台)、中央から離れるにつれて人数が少なくなっていく山型の「正規分布」になることが多いのですが、今回は、1年生も2年生も「正規分布」の教科がほとんどなくて、

1年生では、ラクダの背中のように山が2つある教科や1ヶ台など30点台までの人数がものすごく多い教科があったり、2年生では、中央付近が少ない逆の山型の人数分布となっている教科がありました。

つまり、今回の期末テストでは、「正規分布」なら人数が少なくなるはずの低い得点の生徒が多い、という心配な結果がほとんどの教科で見られたのです。

いろいろな原因が考えられます。テスト問題が授業でやっている内容より難しかったのか、授業では教えているはずなのに子ども達の授業を受ける姿勢や心構え・集中力などが足らなかったのか、家庭学習など授業内容を定着させる勉強ができていないのか、教える教師の指導力が不足しているのか、…教科や教科担任による違いや生徒一人ひとりによる違いもありますから、「こうだから」と原因を限定することはできませんが、授業で学習しているはずのことをテストで答えることができない(答案用紙に書けない)生徒が多い、ということは言えると思います。

大庄中生徒の家庭学習時間～市の学力・生活実態調査の質問紙から～

5月に実施した尼崎市学力・生活実態調査の質問紙から、本校生徒の家庭学習時間が市平均より少ないこ

とがわかっていました。以前から、尼崎市の中学生の家庭学習時間は、県平均や全国平均より少ないと言われていたから、それより少ない時間の家庭学習しかない大庄中の生徒…大丈夫なのでしょうかね？

学校で行っている「放課後学習」や塾を含めた家庭学習時間は次の通りです。(市全体と本校の結果を比べて、パーセンテージの高い方を**太字**にしています)

	本校1年	尼崎1年	本校2年	尼崎2年
ほとんどしない	24.7%	17.5%	28.8%	20.3%
30分まで	15.1%	14.1%	11.8%	12.3%
30分～1時間	23.3%	25.8%	18.3%	22.6%
1時間～2時間	22.6%	23.6%	22.2%	24.8%
2時間～3時間	11.6%	13.3%	15.0%	14.9%
3時間～4時間	2.1%	3.8%	2.0%	3.8%
4時間以上	0.7%	1.6%	2.0%	0.3%



本校は、「ほとんどしない」など家庭学習時間の少ない生徒が多く、家庭学習をたくさんしている生徒が市の平均より少ない、ということがよくわかっていただけれるかと思えます。

2年後の公立高校学区再編(拡大)に備えて

11月末に、市教委主催で、現中学1年と小学校5・6年を対象とした「公立高校通学区再編に向けた保護者説明会」がありました。

26年度の卒業生(今の中1)の入試から、芦屋市を除く阪神地区と丹丹地区(三田市・篠山市・丹波市)が1つの学区になり、他市町の生徒が尼崎市内にある普通科の高校を受検することや単位制や総合学科の高校を3月の一般入試で受検することが可能になります。もちろん、尼崎の中学生が、同じように新しい学区内にある他市町の高校を受検することも可能になります。

学区再編に伴う選抜制度や学科・コースの一部変更などは、まだ発表されていません。例えば、普通科では、阪神地区は複数志願選抜ですが、丹丹地区は単独選抜です。これをそのままにしておくのか、統一するのか決まっています。また、複数志願選抜の第1志望加算点も、市によって違っているのを統一するのかそのままたまのかも決まっています。ですから、現時点で、市町をまたがった生徒の動きがどれくらいの数になるかという予測は難しいのですが、尼崎市内にある高校の入試のレベル(合格最低点など)が上がるだろうということは予想されます。つまり、3年間の学習の積み重ねとともに、これまで以上に入試当日のテストで点数を取れる実力をつけておくことが必要となります。今の中1の生徒は、2年後の公立高校の入試のことも視野に入れながら、毎日の学習に取り組んでおく必要があるでしょう。

新着任職員の紹介

大変遅くなりましたが、11月の始めから2人の職員が本校に勤務していますので、お知らせします。

教頭：前田 裕司

(前教頭の山本勲が病氣療養中のため、尼崎市教育委員会学校教育部より11月8日付けで着任)

生活指導員：北垣ちつる

(本校前校長で前任の西川 和仁生活指導員の死去により11月1日付けで着任)

(文責：校長 福井 隆夫)